

植物多様性センターの「正月の薬用植物」

年始に祝いとして飲む薬酒屠蘇、数種の薬草を組み合わせた屠蘇散を清酒・味醂などに浸して作ります。処方の構成生薬は諸説ありますが、乾姜(ショウガの根茎)・桔梗(根茎)・桂皮(シナモンの樹皮)・山椒(果皮)・朮(オケラの根茎)・丁子(蕾)・陳皮(ミカンの果皮)・防風(ボウフウの根)を用いるのが多い様です。このうち朮と防風は医薬品としてのみ使用可能な生薬のため一般に売られる場合は根茎は葉や莖に、防風をハマボウフウに替え配合する場合があります。正月に一年の無病息災を願って服用するものでしたが、今では医薬効能よりも縁起物と言えるでしょう。皆様、よいお年をお迎え下さい。



キキョウの花(7月撮影)
冬季は地中の根茎で過ごす



サンショウの実(9月撮影)
果実が裂開し種子が覗く



オケラの花(9月撮影)
冬に採取した根茎が高品質



ハマボウフウ(6月撮影)
防風の代用品で効能は劣る